一般集団の母親の BAP 特性と育児ストレスおよび母子相互作用との関連

田中　祐子

【序論と目的】

Broad Autism Phenotype（以下，BAP）とは，軽度ではあるが質的に Autism Spectrum Disorder（以下，ASD）に類似した行動や認知の特性のことを指し，ASD 者の近親者でよくみられる（Piven et al., 1997）。これまでの研究では，特に ASD 児の母親において，BAP 特性がいかに行動に影響を及ぼすかが調べられている。例えば，ASD 児の母親は，BAP 特性が強いと，育児ストレスが高く（Ingersoll & Hambrick, 2011; Hartley et al., 2013），母子相互作用中に子どもへの侵入的な行動が多くなり，子どものニーズに敏感な行動が少なくなることがわかっている（van Esch et al., 2018; Flippin & Watson, 2018）。一方，一般集団の母親は，ASD 児の母親の対照群となることが多く，一般集団の母親の BAP 特性はあまり検証されておらず，特に母子互作用中の母親の行動との関連については，ほとんど検証されていない。BAP 特性は，一般集団内に連続体で存在しているので（Sasson et al., 2013a），ASD 児の母親と同様に，一般集団の母親でも，BAP 特性は母子相互作用中の母親の行動に影響を与えている可能性が考えられる。

そこで，本研究では，BAP 特性に関連することが示されている育児ストレスに着目して，一般集団の母親の BAP 特性が，育児ストレスを媒介して，子どもへの侵入的な行動の多さや子どものニーズに敏感な行動の少なさに影響を与えているのかについて検証することを目的とした。また，それらの関係性がストレスの負荷によって変化するかどうかを調べるために，ストレスのかかる絵本共有場面とストレスのかからないおやつ場面を設けた。

【方法】

研究参加者は，A 市の 1 歳 6 ヶ月児健診で，本研究への協力の同意が得られた母親とその子ども 36 組であった。母親の BAP 特性と育児ストレスを質問紙で調べ，ストレスのかかる絵本共有場面とストレスのかからないおやつ場面での母子相互作用をビデオカメラで撮影した。それぞれの場面ごとに，母子相互作用中の母親の行動を観察し，絵本を共有することやおやつを食べることに子どもを誘う母親主導の行動を全生起法で記録した。そのうち，子どもへの侵入的な行動と子どものニーズに敏感な行動を分析した。まず，「母親の BAP 特性」と「育児ストレス」，「ストレスのかかる絵本共有場面とストレスのかからないおやつ場面での母親の行動」との関連をそれぞれに調べた。それらの関連を確認した上で，育児ストレスを媒介変数として，母親の BAP 特性が母子相互作用中の母親の行動に与える影響を媒介分析で検証した。

【相関分析の結果と考察】

①母親の BAP 特性と母子相互作用中の母親の行動との関連

母親は BAP 特性が強いと，ストレスのかかる絵本共有場面でのみ，子どもへの侵入的な行動が多い傾向があり，一方，子どものニーズに敏感な行動は少ないことが示された。このことから，一般集団の BAP 特性が強い母親は，特に母親が置かれている状況から母親にかかるストレスが強い場合に，BAP 特性が反映されやすい行動を表出する可能性があると考えられる。

②母親の BAP 特性と育児ストレスとの関連

母親は BAP 特性が強いと，育児ストレスが高いことが示された。このことから，一般集団の BAP 特性が強い母親は，子どもの機嫌が悪い時に子どもをネガティブに捉えたり，または子どもが指示に従わない時に母親がうまく対処できないと感じ，育児の自己効力感が低下して，育児ストレスが高くなる可能性が考えられる。

③育児ストレスと母子相互作用中の母親の行動との関連

母親は育児ストレスが高いと，ストレスのかかる絵本共有場面でのみ，子どものニーズに敏感な行動が少なく，一方，子どもへの侵入的な行動は多いことが示された。この結果について，高い育児ストレスが，子どものペースや興味に応じるための母親の認知資源を減らす可能性がある（Chan & Neece，2018）という知見を考慮すると，次のように解釈できる。子どものニーズに敏感な行動は，子どもの内的状態や行動を考慮した上で，自分の行動を調整しなければならず，認知資源がより必要な行動と言える。そのため母親は，育児ストレスが高いと，利用できる認知資源が少ないために，子どものニーズに敏感な行動が少なくなるのではないかと考えられる。一方，子どもへの侵入的な行動は，子どもの内的状態や行動を考慮せずに，母親が一方的に指示する行動であり，認知資源がそれほど必要でない行動と言える。そのため母親は，育児ストレスが高いと，利用できる認知資源が少ないために，母親が一方的に指示するようになり，子どもへの侵入的な行動が多くなるのではないかと考えられる。さらに，ストレスのかかる絵本共有場面でのみ，育児ストレスとこれらの行動との関連が示されたことから，母親が置かれている状況から母親にかかるストレスの高低によって，育児ストレスと母親の行動との関連度合いが異なることがわかった。

【媒介分析の結果と考察】

次に，上記3つの関連を確認したあと，育児ストレスを媒介変数として，母親の BAP 特性が子どものニーズに敏感な行動の少なさや子どもへの侵入的な行動の多さに与える影響について，媒介分析を行った。その結果，母親の BAP 特性は，育児ストレスを媒介して，子どものニーズに敏感な行動の少なさに影響を与えていることが示された。しかし，子どもへの侵入的な行動の多さには，母親の BAP 特性が直接関与し，育児ストレスが媒介しないことが示された。育児の中では，母親は，急な子どもの要求に応じたり，子どもに合わせて自分の優先順位を柔軟に変えたりといった認知の柔軟性が必要であるが，これまでの研究で，BAP 特性が強い母親は，認知の柔軟性が低いことが示されている（Hughes et al.，1997）。したがって，この媒介分析の結果から次の可能性が考えられる。BAP 特性が強い母親は，認知の柔軟性の低さのために，育児の中で多くのストレスを感じ，子どもの心的状態や行動を考慮して自分の行動を調整することができずに，子どものニーズに敏感な行動が少なくなっている可能性がある。一方，子どもへの侵入的な行動は，子どもの心的状態や行動を考慮せずに，母親が一方的に指示する行動であり，認知の柔軟性がそれほど必要でないと言える。また，育児でのストレスも感じにくい行動であるため，育児ストレスに関係なく，BAP 特性が強い母親は，子どもへの侵入的な行動を示しやすい可能性があると考えられる。

【結論】

本研究では，一般集団の母親の BAP 特性が母子相互作用中の母親の行動に与える影響について，育児ストレスを考慮して検証し，BAP 特性が子どものニーズに敏感な行動の少なさに与える影響には育児ストレスが媒介するが，子どもへの侵入的な行動の多さについては，BAP 特性が直接影響し，育児ストレスが媒介しないという心理プロセスを明らかにすることができた。

【今後の課題】

今後の研究では，BAP 特性が育児ストレスを媒介して，子どものニーズに敏感な行動の少なさに影響を与えるという心理プロセスをもとに，BAP 特性がある母親のストレスをコントロールするための支援方法を検討していきたい。また，母親の BAP 特性が子どもへの侵入的な行動に与える影響ついては，育児ストレスを媒介しなかったが，他の変数が媒介している可能性が考えられる。不安や抑うつ症状は，BAP 特性や子どもへの侵入的な行動と関連することが示されているため，それらを媒介変数とし，母親の BAP 特性が子どもへの侵入的な行動に与える影響の心理プロセスをさらに検証していきたい。（比較発達心理学）